

2024年度自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人東洋大学 東洋大学附属京北幼稚園

I. 2024年度の本園の保育活動について

本年度より「東洋大学附属京北幼稚園」と名称を変更し、教育「5つの柱」を掲げ、新たな歩みを始めた。今年度の保育活動は、教育「5つの柱」を中核として、東洋大学との一層の連携強化を図り、人間形成の基盤となる多様な力を育む保育を目指した取り組みを行った。

＜教育「5つの柱」＞

1. お互いを大切にし、健やかに生きる力を育む
2. 遊びを通して、主体的に学ぶ力を育む
3. よく考え、自ら行動する力を育む
4. 豊かな環境の中で、創造性や発想力を育む
5. 多様性に出会い、共に生きる力を育む

II. 自己評価及び学校関係者評価の結果について

「平成26年度 学校評価実施要領」に則り、(1)自己評価:教職員対象 (2)学校関係者評価:保護者対象の調査を行った。本項では、その結果を示し、本園の現状と課題を述べる。

1. 教員自己評価項目の達成及び取組状況

	自己評価項目	評価(※イ/ト)	取組状況
【園児の指導に関すること】			
1	指導計画	B 1.47 ↓ (1.13)	全教員が「十分に達成している」「達成している」と回答しており、昨年度よりも評価は高くなっている。特に、指導計画の策定にあたり、教員間による相互検討がなされている。
2	環境の構成	B 1.11 ↓ (0.75)	「達成している」と回答している教員が多いものの、例年指摘されてきた「環境に配慮する指導」項目において課題が残ると捉えている。ただ、昨年度比で改善の方向にある。
3	保育方法展開	A 1.57 (1.59)	ほぼ全教員が「十分に達成している」「達成している」と回答している。特に、園児との関係性や共感的理解に関しては、各教員の評価が一致して高い。本園の保育方法の中核と言える。
【学級経営その他に関すること】			
4	学級経営	B 0.95 (1.00)	園の方針に沿い、一人ひとりを大切にする指導を経営の中核としている点は、評価が高い。一方で、施設設備や安全指導に関する課題意識があり、環境の整理・整頓やより安全な環境整備も併せて、今後の取り組みのポイントと言える。
5	保護者への対応	B 1.06 ↑ (1.29)	家庭との連携や園児の理解を深める情報共有に関して、改善すべき課題があるとの認識が窺える。現状、事故や問題が生じていないが、保護者対応のリスクを感じている。保護者対応や危機管理のための園内研修などを行い、より安全な教育環境を目指す努力を続けていくことが課題となる。

【園の取り組み 教育「5つの柱」に関すること】			
6	今年度の取り組み	B 0.98	2024年度の園の重点施策に関しては、「5つの柱」の実践を含め、各教員が努力している姿勢が窺える。「保育の専門職として互いに尊重し、専門職チームとして活動」できる強みを生かし、今日的課題に共に取り組む方向性が今後の課題となる。

評価 (A…十分に達成している B…達成している C…取り組みが不十分である D…ほとんど取組みができていない)

* : 各教員の回答をA=2ポイント、B=1ポイント、C=△1ポイント、D=△2ポイントとして自己評価項目ごとに平均値を算出し、1.5以上を評価A、0.5以上1.5未満を評価B、△0.5以上0.5未満を評価C、△0.5未満を評価Dとした。

2. 保護者アンケートによる評価

保護者評価項目	評価(ポイント*)	評価について
1. 子どもの様子	A 1.76	総じて高評価が得られており、「毎日園に行くのが楽しみ」(1.73)や「園での生活を通じて確実に成長している」(1.81)など、園での生活が子どもたちにとって充実していることが窺える。
2. 教員のかかわり	A 1.71	「子どもを理解し、誠実に保育をしている」(1.79)や「明るく熱心」(1.91)など、教員の姿勢や対応に対する評価は高い。主体性を育む教育や個性を大切にしている姿勢も含め子どもの成長を促す取り組みが評価されている。
3. 園の対応や姿勢	A 1.71	「保護者からの相談に誠実に対応」(1.75)や「防災に取り組む」(1.78)など安全面や保護者対応への評価が高い。一方、「園での子どもの様子や連絡を適切に伝える」(1.52)がやや低めであり、改善の工夫が必要である。
4. 教育「5つの柱」の取り組み	A 1.64	全体的に1.50以上で「遊びを通して、主体的に学ぶ力を育む」(1.74)や「お互いを大切にし、健やかに生きる力を育む」(1.73)など高評価である。一方、多様性の受容や創造性の促進に関する一層の取り組みが今後求められる。
5. 園運営の重点項目	A 1.63	「コドモンの導入など保護者との連携を図る努力が感じられる」(1.73)と、ICTの活用に対する評価は高い一方で、「園舎や図書館、園庭等の施設は保育環境として魅力的」(1.51)と、施設の充実度にはやや課題があるとする。
6. 預かり保育	A 1.52	「預かり保育は利用しやすい」(1.52)や「子どもは楽しんでいる」(1.68)と比較的良好な評価だが、保育時間の見直し(日数増)や内容の充実が求められる傾向が窺える。

評価 (A…あてはまる B…まああてはまる C…あまりあてはまらない D…あてはまらない)

* : 保護者の回答をA=2ポイント、B=1ポイント、C=△1ポイント、D=△2ポイントとして評価項目ごとに平均値を算出し、教員自己評価と同等に評価A～評価Dとした。

3. 総合的な評価結果

評価(ポイント*)	内容
教員自己評価 B (1.26)	教員自己評価は、総じて高評価であり、概ね適切に園が運営されていると言える。一方で、昨年度からの課題である「環境の構成」における「自然の変化や生物の生育などを通して環境をとらえ、保育に生かす」、「学級経営」における「施設設備の安全管理、園児への安全指導」の評価は低い傾向にあり、今後も取り組むべき課題と言える。
保護者評価 A (1.59)	保護者評価は、全体的に高評価であり、特に「子どもの様子」や「教員のかかわり」に関する項目での満足度が高い。一方で、「園の対応や姿勢」の中でも情報共有の部分の改善、「教育5つの柱」における多様性・創造性の促進、「預かり保育」の運営改善が今後の課題と言える。

4. 評価結果から 2025 年度に改善すべき点

	課題	改善に向けた計画
1	「自然との関わり・生命尊重」に繋がる探究活動の一層の拡充	2024 年度より取り組んできた「自然との関わり・生命尊重」に繋がる活動について、園庭や菜園を中心として、一層の充実を図ると共に、関連する図鑑など探究活動を活性化する環境整備を進める。
2	施設設備の安全管理、園児への安全指導の強化	施設設備の安全管理については、預かり保育の拡充等により園の稼働日数・時間が増加し、職員の勤務シフトも多層化するため、早急に改善策を講じる。また、園の警備体制の充実と共に、園児への安全指導についてもより効果的な指導方法を検討・実施していく。
3	預かり保育の拡充及び保育の質の向上	2025 年度の預かり保育事業は、日数の増加に加え、保育の質の一層の充実を図る。特に、長期休暇中の預かり保育における「えいごであそぼう」プログラム等、本園独自の取り組みを進める。
4	リスクマネジメントの強化	「事故、問題が起きた場合の保護者への説明、対応」「問題行動やけが」などに対して、ヒヤリハット事例の収集を行うと共に、保護者対応や危機管理のための園内研修等を実施し、リスクマネジメント強化を行う。

Ⅲ. 学校関係者評価委員会の評価

1. 目的

本園の教育活動その他の学校運営の状況について、学校関係者による多面的な評価を得ることにより園の適切な運営と改善をはかる。

2. スケジュール

2024 年 9 月 19 日（木）：第 1 回委員会

- ①委員の紹介
- ②園内の見学
- ③委員会の目的・役割について
- ④園の概要、教育方針、運営状況等のご説明
- ⑤質疑応答、意見交換
- ⑥今後のスケジュール

2025 年 3 月 7 日（金）：第 2 回委員会

- ①前回委員会以降の園の運営状況報告
- ②学校評価保護者アンケート及び教員自己評価票の集計結果報告
- ③2024 年度学校関係者評価報告書作成について

3. 委員

<園外委員>

- ①幼児教育に関する理解及び識見を有する者
井口 眞美 氏（実践女子大学生活科学部生活文化学科教授）
内田 千春 氏（東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科教授・学科長）
- ②幼稚園に在籍する園児の保護者
生井 桂子 氏（2024 年度父母の会会長）
- ③近隣地域からの代表者（近隣町内会等）
植野 久代 氏

④近隣地域の小学校校長

宮本 達也 氏（文京区立駕籠町小学校校長）

<園内委員>

中原 美恵（園長） *議長

高橋 季巳江（教頭）

4. 評価結果

9月の委員会では、園内の見学と取り組みに関する意見交換をした。その際、2023年度の評価結果に基づき、安全管理や保育環境の向上に取り組むと共に、情報管理・連絡用アプリ（コドモン）の導入に取り組んでいる点が共有された。

2024年度末の教員の自己評価では、園児の指導に関することは総じて高い評価になっており、教員自身が充実感を持ちながら保育に取り組んでいる様子が窺える。一人ひとりを大切にした指導への意識が高いことがわかる。今後さらに改善できると教員が考えていることの中には、「環境の構成」における「自然の変化や生物の生育などを通して環境をとらえ、保育に生かす」、「学級経営」における「施設設備の安全管理、園児への安全指導」などがあつた。

保護者対象のアンケート調査からは、教員が引き続き園児に対して温かく丁寧な関わりを心がけ、子どもを理解し熱心に取り組んでおり、園児も園生活を楽しんでいる。更に、新たに ICT システムを取り入れ、家庭との連携に力を入れようとしていることも評価されている。保護者からの相談には誠実に対応していると評価されている。

一方、園児の普段の様子などを適切に伝えることについてさらに改善が求められている。導入を始めたコドモンを活用して、事務的負担を減らしながら家庭との連携を深めていっていただきたい。その際、専門職チームの一員として互いを尊重しながら活動できるという強みを生かし、一体となって危機対応ができる体制を充実させていっていただきたい。

預かり保育のニーズは引き続き高く、昨年度から拡充し、さらに2025年度には日数を増加するという計画という報告を受けた。拡充に伴っては、人的にも物的にもさらにリソースが必要になる。内容の充実と共に法人の協力を仰ぎながら検討を進める必要がある。さらに、日常の保育について生物の飼育栽培を含めた保育環境にかかわる課題の解決に向けて、継続して充実が図られることを願う。